

ステビア

学名：*Stevia rebaudiana* (bertoni)Hemsl 科名：キク科



南米パラグアイ原産の多年草で、古くから原住民の間で甘味料として用いられていました。日本において大規模栽培法が開発されて以来、新しい甘味資源として注目され、現在では様々な国で甘味資源として定着し、栽培されています。

採取時期は夏で、葉を甘味料とします。生の葉はすぐ腐るため、一般的には葉を乾燥し粉末にしたものを抽出して使用します。葉には甘味成分の「ステビオサイド」や、「ステビオサイド」よりさらに甘く非常に良質な「レバウディオサイドA」などが含まれています。「ステビオサイド」は砂糖の200〜300倍の甘味を感じられることから、ごく少量で味付けが可能になり、甘みに対する摂取カロリーを抑えることができます。最近では、「レバウディオサイドA」高含有量品種が開発され、世界的にもこのステビア優良品種が大規模に栽培され始めています。

葉は、そのまま紅茶やマテ茶の甘味料にされます。葉から抽出して精製した「ステビオシド」は、糖尿病患者の甘味料、医薬品の矯味剤、低カロリー食品に用いられます。

生薬名	ステビア
薬用部位	葉
薬効	矯味剤
用途	糖尿病患者の甘味料、医薬品の矯味剤、低カロリー食品

オオオナモミ

学名：*Xanthium occidentale* 科名：キク科



ひっつき虫の名前でよく知られているオオオナモミ。今回紹介するのはオオオナモミというオナモミの仲間で、北アメリカが原産です。日本では1929年に岡山県で初めて確認されました。日本にはユーラシア大陸に多く分布するアジア原産のオナモミも存在しますが、近年ではオオオナモミが勢力を強めており、オナモミは環境省のレッドリストにて絶滅危惧種に指定されています。オオオナモミは日本ではほぼ全国で見られ、ひっつき虫との名前で知られる果実が実るのは9月～11月ごろになります。

生薬名である蒼耳子（ソウジシ）は、偽果が女性の耳飾りに似ていることから中国でそう呼ばれるようになったことが由来とされています。

オオオナモミやイガオナモミの果実を蒼耳子としてオナモミの代替品に利用して出回っていることもあります。品質としては疑問視されているとのこと。日本産の蒼耳子の市場品ではオオオナモミが用いられている場合が多く、一方で中国や台湾産の蒼耳子ではオナモミが用いられています。

生薬名	蒼耳子（ソウジシ）
薬用部位	成熟果実（偽果）
薬効	血圧降下、止血、解熱鎮痛作用
用途	解熱、発汗、鎮痙薬として風邪による激しい頭痛、発熱等に用いられる。 蒼耳散（ソウジサン）など

